

# 社会教育



南会津町「あらかい子どもクラブ」  
の子どもたちと地域ボランティア

## CONTENTS

特集.....2

『新しい公共』という視点を持って」

提言.....4

『新しい公共』の構築に向けた  
社会関係資本の増大に向けて」

八戸大学教授 内海 隆

輝け社会教育.....5

須賀川市仁井田公民館

白河市立白河第五小学校父母と教師の会

ほんの森いたて(飯館村)

新柱沢さくらクラブ(伊達市)

人 こえ かも ころ.....7

ボーイスカウト郡山第2団委員長 仲村 魁

北会津地区社会教育委員連絡協議会会長 山野邊 喜勝

いわき市内郷地区学校支援地域本部地域コーディネーター

三室 千鶴子

第52回全国社会教育研究大会福島大会実行委員会副委員長

郡山市社会教育委員の会議議長 国馬 善郎

平成22年度社会教育関係各種受賞者

平成23年度福島県社会教育施設行事予定.....8



南会津町「たじま子どもクラブ」  
の子どもたちと地域ボランティア

南会津町の「放課後子ども教室」は、地域の方々の協力を得て、放課後の子どもたちの活動を安全で充実したものにすべく、様々な活動に取り組んでいます。

上の写真は、「あらかい子どもクラブ」で、地域ボランティアの方の指導のもと、「大正琴」の演奏を体験している様子です。

下の写真は、「たじま子どもクラブ」で、地域ボランティアの方と一緒に、「やじろべえ作り」を楽しんでいる様子です。



本県においては、「"ふくしまの和"で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念とした第6次福島県総合教育計画に基づき、各施策を推進しておりますが、特に「基本目標2」である「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」に向けては、人材の育成や地域の教育力向上などにかかわる社会教育行政への期待がかかるところです。

(下資料参照)

今後、事業を推進するにあたっては、厳しい社会情勢が予想される中、地域住民等民間の協力をなくして進めることは困難と思われます。今後、「新しい公共」という視点を持ちながら、社会教育の推進に取り組み、効果を上げることが重要と思われます。

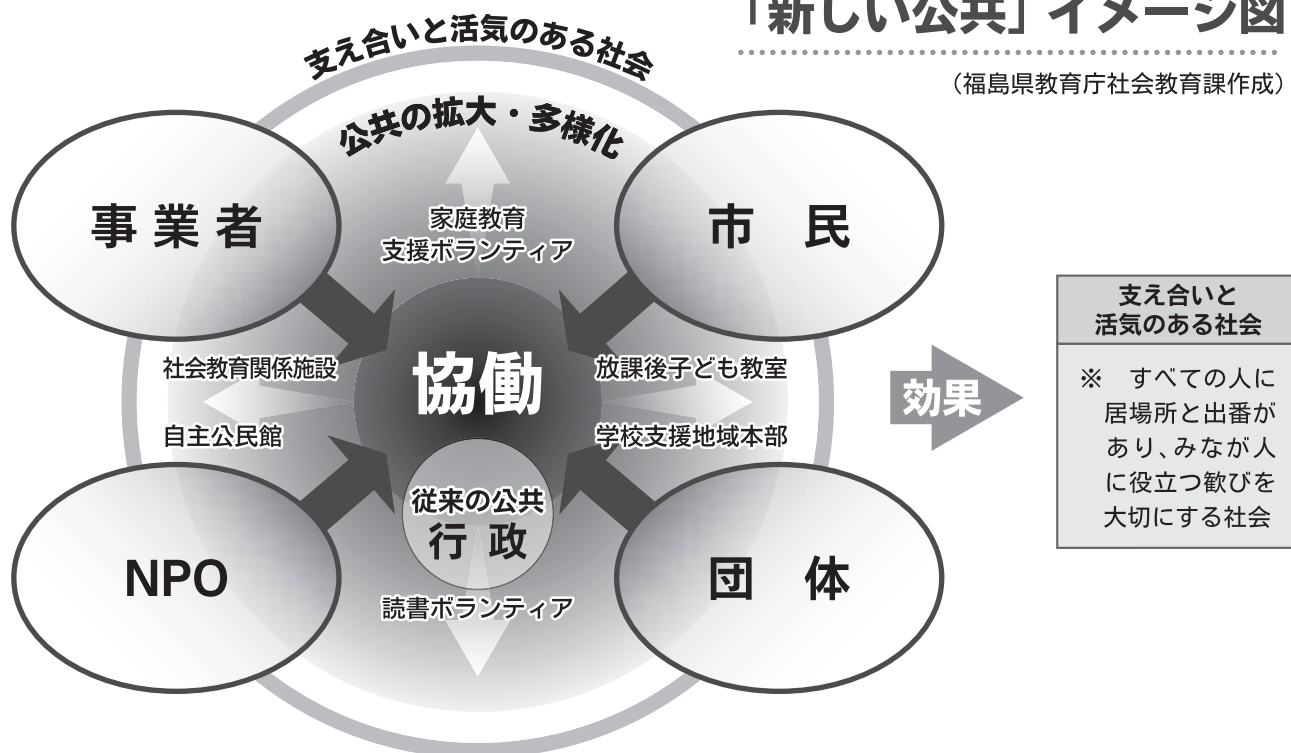
## 「新しい公共」について

国の「新しい公共」円卓会議が宣言した「新しい公共」とは、人を支えるという役割を、「官」と言われる人たちだけが担うのではなく、市民自身やNPO法人、企業などにも参画を促し地域みんなで「支え合いと活気のある」社会を目指そうとするものです。

「市民団体や地域組織」、「企業やNPO法人」、「行政」等が、一定のルールとそれぞれの役割をもちながら協働することで、多様なニーズに応じたきめの細かいサービスが可能になります。また、地域コミュニティが再生・創造され住民相互のつながりが強くなり地域が活性化するとともに、住民自らが「地域づくり」に参画することで「新しい成長」が期待されます。

## 「新しい公共」イメージ図

(福島県教育庁社会教育課作成)



【資料】第6次福島県総合教育計画より

### 基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

#### 施策(抜粋)

- 地域全体で子どもたちを教え育てる取組みを支援します
- 家庭における教育を支援します
- 生涯を通して学習し、その成果が活きる環境を整備します
- 自然に親しみ、自然を尊重するところを育みます

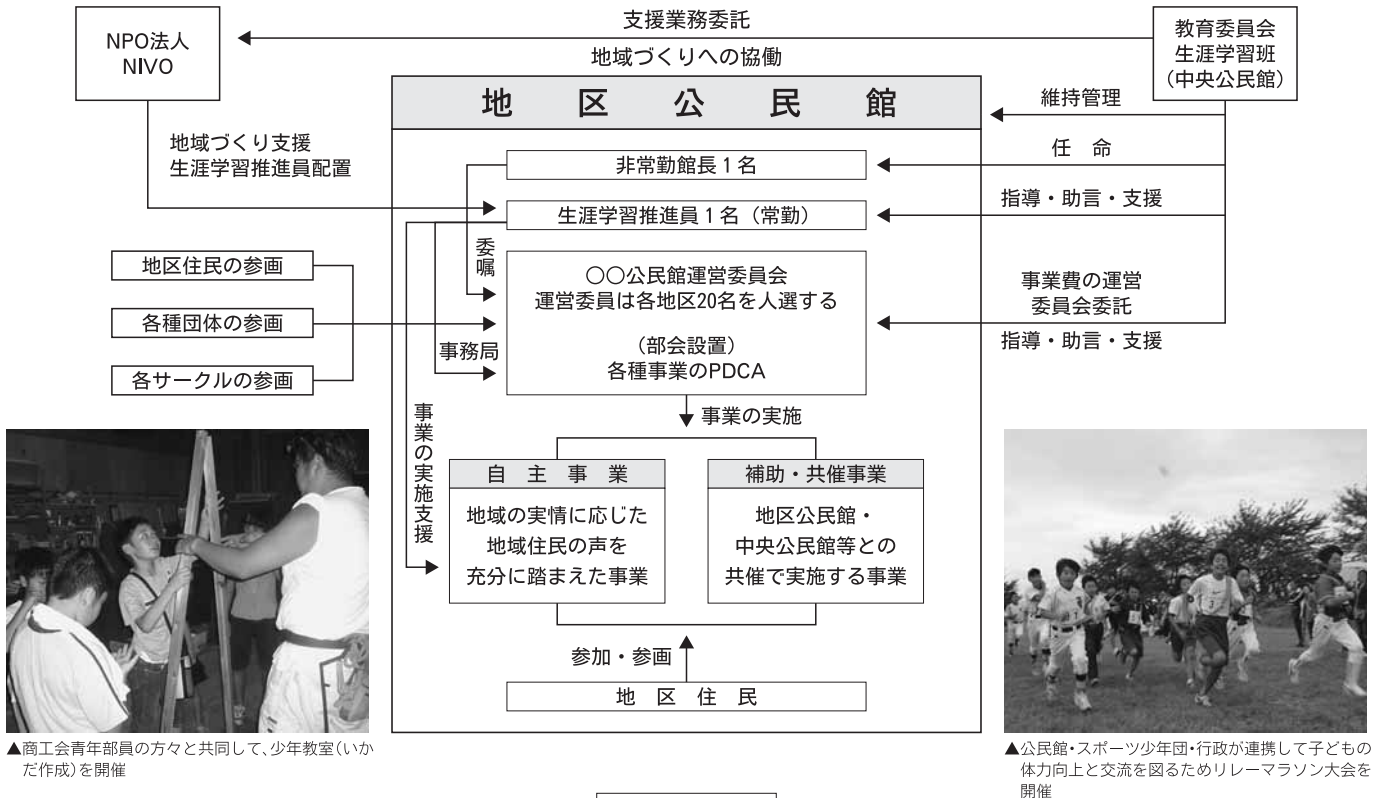
# 「新しい公共」の視点から見た市町村の取り組み事例

## ● 会津坂下町自主公民館の取組み【会津坂下町中央公民館】

会津坂下町には、7地区それぞれに地区公民館があり、平成16年度から各地区公民館管内の住民の方々から公民館運営委員を選任し、地域住民の目線で地域課題等を学び、住民の方々の"自分づくり"から"豊かな地域社会"を築いていくために、新たな視点での公民館運営制度をスタートしました。その協働の視点で生涯学習推進員の支援をNPO法人NIVOに委託し、"ばんげ版自主公民館像"を築いてきました。

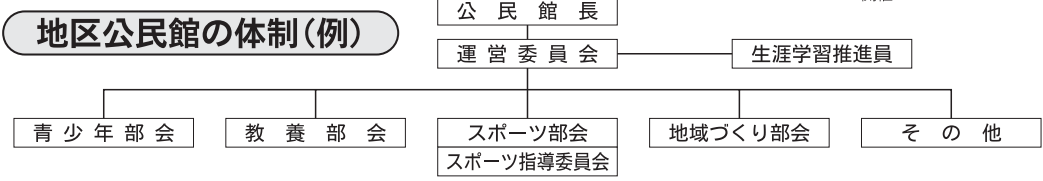
### 自主公民館活動の機構図

社会教育法の規定に基づく「公民館の設置及び運営に関する基準」により、地域社会、地域の実情を踏まえた自主的な運営を行うものとする。このため、地域住民と社会教育機関や民間団体などの「協働」による公民館運営・活動を行う。



▲商工会青年部員の方々と一緒に、少年教室(いかだ作成)を開催

▲公民館・スポーツ少年団・行政が連携して子どもの体力向上と交流を図るためリレーマラソン大会を開催



### 運営委員：各種事業の企画・立案・運営・検証

- 生涯学習推進員：①地域住民とのコミュニケーションと活動の場の提供 ④貸館業務  
 ②公民館事業全般に係る事業の推進 ⑤地域づくり計画・協議会に関する業務  
 ③庶務的な業務（文書発送など） ⑥各種団体の相談支援と地域づくりとひとづくりのための活動

### 【会津坂下町の目指す姿】

今年度策定に向けて作業を進めている第5次会津坂下町振興計画の中で、7地区公民館を核として管内の各種団体等と連携・協働し、地域の良さを見つめ直し、地域の将来を創造し、将来にわたり、伝統を受け継ぎ、自慢できる地域にすべく、『地域づくり計画』を策定しました。この地域づくり計画を具現化していくため、住民の方々がともに"まなび・活動"していく、新たな"ばんげ版自主公民館像"を確立していきたいと考えています。

平成20年2月に中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」で示された「知の循環型社会の構築」を目指すためにも、今後、多様な主体がそれぞれの役割を果たしつつ協働しながら社会教育の振興に取り組むとともに、「新しい公共」の担い手を育成することが重要であると考えます。

# 「新しい公共」の構築に向けた 社会関係資本の増大に向けて



八戸大学教授  
**内 海 隆**

「公共」に関する議論は、1990年代の半ばからあったが、最近では従来の「公(官)」と「民」という単純な二元的思考ではなく、生活の基盤であるコミュニティづくりに関しては、民も公の担い手(市民・住民)としてとらえ、「新しい公共」づくりとしての公・官と民の関係は、肯定的な意味合いで積極的に取り上げられるようになった。

特に近年の少子・高齢化、都市化と無縁化、旧来のコミュニティ機能の低下など、様々なコミュニティに関する問題が、私たちの日常生活に影響を与えるものとして表面化し取り上げられている。しかも、私たちの生活、社会が多様化、複雑化する中で、私たち住民の求めるニーズも多種多様となり、従来の行政の枠組みだけで公共的な諸問題を解決することが難しくなってきた。従来通りの行政サービスでは住民の要求や課題に十分に対応できない状況になってきているのである。

そこで、住民が行政・生活空間としての地域社会で豊かに生活するには、地域コミュニティの問題を自分自身の問題として考える新しい「市民力(住民力)」が求められるようになった。「新しい公共」の観点に立った自主的、自立的な地域づくりへの取組み、システムの再構築が求められるようになったのである。

この「新しい公共」を考える国の円卓会議では、「『新しい公共』が作り出す社会は、『支え合いと活気がある社会』である。すべての人に居場所と出番があり、みな人が人に役立つ喜びを大切にできる社会であるとともに、その中から、さまざまな新しいサービス市場が興り、活発な経済活動が展開され、その果実が社会に適正に戻ってくる事で、人々の生活が潤うという、よい循環の中で発展する社会である。」として、「支え合いと活気のある」社会が出現すれば、ソーシャルキャピタルの高い、つまり、相互信頼が高く社会コストが低い、住民の幸せ度が高いコミュニティが形成され、さらには、つながりの中で新しい発想による社会のイノベーションが起り、「新しい成長」が可能となるであろうとして、この新しい公共

性の創造のために、新しい社会「資本」としてのソーシャルキャピタルを重視している。

ところで、ソーシャルキャピタル(Social Capital)とは、直訳すれば「社会資本」であるが、ここでは社会の人間関係を社会資本と見なした意味内容で用いられている。地域社会の中で、住民と住民、組織と組織がつながり、そのヨコのつながりのネットワークの中で信頼関係を構築し、お互い様という互酬性や所属するコミュニティへの責任感を共有することが可能となる。しかも、このネットワークは「信頼できるネットワーク」である。「わらしべ長者」にある「信頼できる人間関係(性)」にもとづいたネットワークである。

私たちの生活空間を豊かなものにする「新しい公共」を形成するには、地域におけるソーシャルキャピタル(社会関係資本)をより豊かにすることによって、地域力が向上し、公共サービスの新たな担い手を育てることが可能となる。

社会を良くするための人づくり、人育ての社会教育は、その担い手づくりのためのソーシャルキャピタルを豊かにする重要な使命と役割を持っているのである。

## プロフィール うちうみ たかし

1974年 日本大学文理学部卒

1980年 日本大学大学院博士課程修了

現 在 八戸大学ビジネス学部教授

八戸短期大学副学長

「社教情報」編集委員長

- 八戸市社会教育委員長、青森県社会教育委員連絡協議会長、(社)全国社会教育委員連合理事、青森県男女共同参画審議委員・アドバイザー、青森県消費生活審議委員、階上町生涯学習アドバイザーなどを歴任。研究テーマは教育改革の視座、臨床学としての教育等。男女共同参画、心の教育、社会教育など、多方面で活躍。



## 地域住民との協働による 公民館事業運営を目指して

須賀川市仁井田公民館

公民館が所在する仁井田地区は、古くからの農村地域と新興住宅地域が混在する自然豊かな地区です。公民館の事業運営に当たっては、関係する地域の各種団体や組織の協力を得ながら、地域住民による実行委員会を立ち上げるなどして、できる限り企画の段階から関わってもらうように取り組んできました。事業運営に関わることで、責任感や達成感を公民館職員と共有し、事業の効果を高めるための工夫や評価に繋げるように努めています。以下、特徴的な事業を2つ紹介します。

### 1 地域づくり事業「一人芝居公演」

「仁井田から発信できる事業を地域住民とともに」を合言葉に、平成14年度から地域住民の有志による地域づくり実行委員会が公民館と連携し、毎年、地区内の小学校を会場に開催している「一人芝居公演」事業です。東京を中心に舞台などで活躍している俳優を招聘し、事業のPRから舞台の設営、会場準備、運営にいたるまで、すべて実行委員やボランティアの手によって行っています。この事業は、仁井田地区の特徴ある恒例事業として市内外に知られるようになり、地域づくりの活性化に繋がっています。



▲一人芝居公演終了後、出演者と実行委員で観客にあいさつ

### 2 子育て支援事業「キラキラ学級」

核家族が増えている現状を踏まえ、乳幼児をもつ親を対象に、区内の市立幼稚園と連携し、子育てに関する学習やリフレッシュ、親同士の情報交換交流の場として年7回(毎月1回土曜



▲子育て支援事業「キラキラ学級」の様子

日開催)にわたって開講している学級です。学級の運営に当たっては、地区の健康づくり推進員や健康づくりの会子育て部会員、さらには一般ボランティアによるサポートスタッフ20数名が学習の準備や参加者の受け付け、乳幼児の世話、参加者の相談役などを担い、親同士の仲間づくりと地域全体で子育てを見守る体制づくりに努めています。

仁井田公民館は、昨年11月に地域住民との連携による事業運営が評価され、優良公民館として文部科学大臣から表彰を受けました。今後も地域の方々との連携を深めながら、愛される公民館を目指し、一層努力していきたいと思っています。

## PTAの活動紹介

白河市立白河第五小学校父母と教師の会

白河第五小学校は白河市の南に位置し、たくさんの緑に囲まれた自然環境に恵まれた児童数181名の学校です。本校PTAは昭和24年に設立されて以来、会員の理解と地域の方々のご協力により様々な活動を行ってまいりました。その幾つかを紹介したいと思います。

まず1つは、地域環境を生かした活動です。学校田でのもち米作りや生き物観察会、間伐材を利用したきのこ栽培、収穫後の「感謝する会」を行っており、食への関心や協力者への感謝の気持ちを育てています。夏休みに開催する「サマーフェスタ～親子のつどい～」では、児童と保護者、教職員が参加し、パークゴルフや地域の歴史・文化に触れるウォークラリー、野外炊飯などを実施し地域理解や親子の交流を図っております。また、年3回の奉仕作業やPTA設立以来続く学校林の管理作業のほか、各委員会においても地域を生かした様々な活動が行われています。もう1つは、地域の各種団体と連携、協力した活動です。

今年度は、所轄警察署と地区交通安全協会を中心に各種団体の



▲稲刈り

協力を得ながら、児童と保護者はもちろん、地域の方々にも参加してもらい「交通安全講習会」を開催しました。自転車シュミレーターや点灯君などの機材を使用した交通安全指導のほか、県警音楽隊の演奏を聞く事ができ楽しみながら安全管理を学ぶ事ができました。



▲学校林下草刈り

今回紹介できませんが地域の方々のご理解とご協力により様々な活動があり、児童の健全育成と安全確保、環境整備がなされており、私たち保護者にとって心強い限りです。

昨年11月には、これらの活動を認めて頂き、「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞しました。大変嬉しい事ですがこれも歴代PTAの皆様を始め、地域の皆様、関係各位の長年にわたる御尽力の賜と感謝の気持ちで一杯です。

さて、私達はこの受賞を機に、もう一度PTAの役割を再確認しなければなりません。子どもたちが安心して元気に学校生活を送れるよう、そして私達保護者も共に成長していけるよう、地域の方々とともに歩み続けたいと思っています。

## 地域の子どもたちとともに

ほんの森 いいたて(飯館村)

「ほんの森いいたて」は、平成7年の2月にオープンし、今年で16周年を迎えました。それまで当村には、図書館はもちろんのこと書店もありません。村民に本に親んでもらいたい！子どもたちに本を身近に感じてほしい！という思いで設立されたので、店内には自由に本が読めるようにテーブルや椅子を設置しており、立ち読みではなく座り読み歓迎の珍しい書店です。本を見ながらメモをとるなど図書館的な活用をする人、宿題をするために子どもたちが集まり、学校帰りの中学生たちが「ただいま！」と入ってくる“みんなの家”のような存在になっております。

平成9年からは、村民あがての「秋祭り」の会場の一つ、公民館内に「移動ほんの森」として書籍の出前販売を続けています。また平成10年から「読書メッセージコンテスト」を秋の読書週間に併せて始めました。これは、読後の感想を簡単なメッセージとして伝えるもので、村内外から毎回多数の作品が寄せられ、昨年の第13回目には569通の応募がありました。



▲店内でのおはなし会の様子

その中に入賞作品を村の広報で紹介したり、その他の応募作品も随時店内のPOPとして活用したりするなどして、読書活動の向上を図っています。そして平成11年からは、本・森などのテーマで「川柳コンテスト」を実施し、これにも多数の作品が寄せられ子供たちのユーモアあふれる川柳、大人たちの情緒溢れる川柳など村民の「ほんの森」に対する思いが強く感じられます。また店舗内では随時読み聞かせを実施していますし、毎月第4土曜日を中心にスタッフが「おはなし会」を、それと年1回のオープン記念日には、作家・声優など有名人を始め他のおはなしグループなどを招いてのちょっと変わった「おはなし会」も行っております。おはなし会のあとに体験コーナーを設けており、参加者全員で工作などをして交流を深めています。村での読書推進活動を勧める上で、「ほんの森いいたて」はなくてはならない書店となっています。



▲15周年記念とよたかずひこ氏

## 地域の子どもは地域で育てる

新柱沢さくらクラブ(伊達市)

新柱沢さくらクラブは、伊達市立柱沢小学校の児童を対象に放課後子ども教室を実施しています。

柱沢小学校の北側に紅屋峠森林公園があり伊達地方北部一帯を一望できる好環境です。平成14年度から紅屋峠森林公園を桜の名所にしようと、育樹作業などの活動を行っており、校庭を囲むように600本余りの桜が植えられています。そのような中で、子どもたちも桜の木のように、育ち成長して欲しいとの思いからクラブの名称を「新柱沢さくらクラブ」と命名しました。

実施形態は市から運営業務を受託し、専門の指導員4名によるローテーションにより、子どもたちを放課後や週末等に、学校敷地内にある旧校長住宅を改修した建物で、さまざまな取組みを実施しています。また、スタッフの他にも地域ボランティア22名の方に登録していただき、コーディネーターによる交流事業を計画し実施しています。

平成22年度の実施日は、月曜から金曜までは18:30まで、土曜日は7:30～18:30までの年間272日開催しております。

対象児童については柱沢小学校に通うすべての子どもを対象としておりますが、今年度は1～4年生の内16名が登録し利用しています。平成22年度に実施した主な事業の取



▲竹で水鉄砲作り

組みについてご紹介します。

### 【竹で水鉄砲を作ろう】

昨年の夏は連日の猛暑で、子どもたちもだるくなり、少しでも涼む事ができる事業をと思い、竹を利用した水鉄砲を作りました。竹は学校の敷地内に竹林があり、そこからボランティアが切り出し、竹水鉄砲に見合った長さに切りそろえて、キリで穴を開け、鉄砲の本体になる竹筒を準備しました。子どもたちがボランティアに手ほどきを受けながら体験し完成させました。

今回の交流事業ではボランティアの方々に「竹を切る」「穴を開ける」など女性の指導員だけでは教えることが難しい工作をご指導頂き大変感謝しました。子どもたちも暑さを忘れ出来上がった竹水鉄砲で元気よく遊んでいました。

このような交流事業については、地域ボランティアの方々との協力を得ながら、いろいろな体験を実施していきたいと思っております。



▲作った水鉄砲で楽しく遊ぶ



## 社会教育功労者表彰を受賞して

ボーイスカウト郡山第2団委員長  
仲村 魁

昭和23年にボーイスカウト公認指導者講習会修了後、当時の文部省主催の青少年指導者講習会で栃木県のボーイスカウト指導者の宮火長振りに感動したことをきっかけに、当時勤めた学校の林間・海浜学校において成果を活用し多くの生徒・保護者に好評を得ました。郡山市に転動した後、天神浜教育キャンプで2人の生徒が指導的な役割をこなすのを見て、スカウト活動の魅力に惹かれました。昭和42年に長男がボーイスカウト福島第49団少年隊に入るのと同時に、団委員長として運営に協力し、翌年少年隊長として奉仕することになって以来、約40年間、恵まれた職場と理解ある保護者・家族のおかげで多くのスカウト活動に参加することができました。県内外はもちろん世界の国々の様々な方との交流の機会と、数多くの感動を与えていただきました。

今後は、宮沢賢治先生の「雨二モマケズ」の詩の心境で榮譽に報いるため、青少年健全育成に尽くしたいと思っています。



## 地域の子どもたちとともに

いわき市内郷地区学校支援地域本部  
地域コーディネーター

三室 千鶴子

私の住んでいる町、内郷は、かつて炭鉱で栄えた町です。町の随所に炭鉱遺跡が風化した形で残っています。まだ子どもが小さかった頃、「お母さんあの三角形の山は何？あの煙突は何のために建っているの？」という質問に、炭鉱をよく知らない私は答える事が出来ませんでした。地域の子どもたちに自分のまちの歴史を知って欲しい、子どもたちにふるさとを自慢に思っ欲しいとの一念から私と学校との関わりがスタートしました。今、学校支援事業のコーディネーターとして地域で活動している方々を要請のある授業に講師として入ってもらっています。先日は、3年生の総合の時間に学校の歴史、そして炭鉱の歴史を話して頂き次の授業には炭鉱遺跡巡りをしました。校庭から毎日見ているズリ山も煙突も、校長室に飾ってある炭鉱発見者の片寄平蔵も子どもたちには初めて学習するものばかりで、「まちの素晴らしさに気づく」授業でした。興味が持てる授業になるよう私たちコーディネーターはアンテナを張り巡らしボランティアの方々が沢山登録していただけるよう頑張ります。



## 全国社会教育委員連合表彰を受賞して

北会津地区社会教育委員連絡協議会会長  
山野邊 喜勝

平成22年10月28日、郡山市で「うつくしま、ふくしま発。地域が元気になる社会教育！」の大会スローガンのもと、第52回全国社会教育研究大会福島大会が開催されました。その席上、全国表彰受賞の榮譽に浴することができました。さて、今大会では、全国社会教育委員が一堂に会し、社会教育の課題について、真剣な討議を行いました。討議の成果は今後の社会教育の新たな源泉となり生涯学習社会の実現に向けた確かな基盤になると思います。私は教職を退職後、社会教育委員として15年間、社会の要請に応えながら、学校・家庭・地域と連携し、生涯学習を支援する社会構築を目指して、歩み続けてまいりました。その間、時代の変遷と共に地域社会の課題も多様化し、それとあいまって、社会教育が抱える課題も複雑化してきました。従って、これからの社会においては、多くの難解な課題に対して、社会も個人も思惟を深め、真摯に立ち向かうことが要求されます。今後、生涯学習の理念の明確化と実践に向けて、社会教育委員の責務はますます大きくなります。私は15年の貴重な経験に基づいて、その重責をしっかり受け止めながら、社会教育の充実発展に寄与すべく努力を重ねていく所存です。



## 第52回全国社会教育研究大会福島大会を終えて

第52回全国社会教育研究大会福島大会実行委員会副委員長  
郡山市社会教育委員の会議議長

国馬 善郎

昨年10月、郡山ユラックス熱海とホテル華の湯を会場に開催された東北地区及び県研究集會を兼ねる標記大会は、1千人近くの参加者を集め、県内市町村の社会教育委員と社会教育行政関係者などで人情味あふれるおもてなしの心と英知の結集による緻密な計画により運営されました。

「『継承』と『創造』が循環する地域社会をつくる社会教育振興のあり方」を大会テーマに3日間開催しましたが、特に基調講演では、リカちゃん人形で有名なタカラトミー創業者で本県出身である佐藤安太氏の処世術や社会貢献のこれまでの実績に基づき、高齢であられる現在においても、現役で日本の未来を見据えながら生涯学習の振興に尽力する姿に感動しました。

また、アトラクションにおける「楽都郡山」を象徴する郡山第二中学校管弦楽部の高い演奏技術に感激したり、シンポジウム、分科会で熱心に意見交換をしたりするなど、今後の各地域において一層社会教育が推進されることが期待できる大会となり大成功でした。

# 平成22年度社会教育関係各種受賞者 平成23年度福島県社会教育施設行事予定

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	中島 功（福島県市町村社会教育委員連絡協議会会長） 仲村 魁（ボーイスカウト郡山第2団委員長）	12月14日	文部科学大臣
優良公民館	須賀川市仁井田公民館 会津坂下町中央公民館	11月2日	
優良PTA	白河市立白河第五小学校父母と教師の会 石川町立中谷第二小学校父母と教師の会	11月26日	
子どもの読書活動優秀実践 図書館・団体(個人)	1 図書館 矢祭もったいない図書館（矢祭町） 2 団体 ほんの森いいたて（飯館村）	4月23日	
社会教育功労者	室井 伸子（下郷町男女共同参画推進協議会会長） 岡田 常雄（双葉町社会教育委員の会議議長）	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	1 団体 いわき市立草野小学校父母と先生の会 飯館村立飯樋小学校PTA 西会津町立西会津中学校父母と教師の会 喜多方市岩月婦人会 2 施設 郡山市立中田公民館 須賀川市稲田公民館 西郷村中央公民館	11月1日	
全国社会教育委員連合	神野 昭治（安達地方社会教育委員連絡協議会会長） 山野邊喜勝（北会津地区社会教育委員連絡協議会会長）	10月28日	(社)全国社会教育委員連合
日本PTA全国協議会	1 団体 田村市立下大越小学校幼稚園父母と教師の会 いわき市立草野小学校父母と先生の会 2 個人 浪岡 真澄（前会長） 松本 一広（前副会長） 田口 直人（前副会長）	11月26日	(社)日本PTA 全国協議会長
東北地区社会教育委員 連絡協議会	齋藤 元（二本松市） 石井恵美子（田村市） 菊地 芳枝（西郷村） 山崎 信子（喜多方市） 兒島 厚（会津美里町） 野木 三男（楡葉町）	10月28日	東北地区社会教育 委員連絡協議会

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
「江戸から明治へ 世相をうつす『風俗画報』展」 4月8日(金)～6月1日(水) 「絵本クロニクル」 6月3日(金)～8月31日(水) 「古地図・鳥瞰図・資料から見るふくしまの道」 9月2日(金)～11月30日(水) 「ふくふくネット連携企画展」 12月2日(金)～12月27日(火) 「文化6館連携企画 福島県文化財センター白河館まほろん展」 平成24年1月6日(金)～2月12日(日) 「軍記物語にみる“戦”の記録～佐藤文庫収蔵資料を中心に～」 平成24年2月24日(金)～6月6日(水)	「スタジオジブリ・レイアウト展」 2月26日(土)～5月22日(日) 「帰ってきた江戸絵画 ニューオーリンズギター・コレクション展」 6月11日(土)～7月24日(日) 「第35回全国高等学校総合文化祭<美術・工芸部門>」 8月3日(水)～7日(日) 「ノスタルジック福島～アートクラブ100年」 8月13日(土)～9月4日(日) 「水のアート展(仮称)」 9月17日(土)～11月13日(日) 「横尾忠則ポスター展」 平成24年2月11日(土・祝)～3月25日(日)	春の特集展 「永山巨コレクション展-集め続けて30年、資料が語る炭鉱(ヤマ)のくらし-」 ～5月15日(日) 夏の企画展 「東北考古学の挑戦-一挙公開!東北大学所蔵考古資料-」 前期7月9日(土)～7月27日(水) 後期8月12日(金)～9月19日(月) 秋の企画展「保科正之の時代」 10月8日(土)～11月27日(日) 冬の企画展「小さなもの集まれ」 平成24年2月18日(土)～5月13日(日)	相馬海浜自然の家 「思いっきり海浜チャレンジ2011」 7月18日(月) 郡山自然の家オープンデー 9月25日(日) 会津自然の家 「あったかふれあいまつり」 10月15日(土) いわき海浜自然の家 オープンデー 10月30日(日)

## 福島県社会教育委員

※ 任期：平成22年6月20日～平成24年6月19日

伊藤 行和 小椋 詳子 小熊 敬子 小林 清美 佐藤壮一郎 佐藤 晴美 瀬田 弘子  
 新井田萬壽子 根上 正志 根本 早苗 根本 佳夫 浜島 京子 古川満里子 柳沼 陽一  
 吉田 恵三 渡辺 仁 (副議長) (議長) ※50音順

## 編集後記

平成22年10月、郡山市を会場に「第52回全国社会教育研究大会福島大会」が開催されました。

全国各地から900名を超える社会教育関係者が一堂に会し、『継承』と『創造』が循環する地域社会をつくる社会教育振興のあり方をテーマに、2日間にわたる活発な協議をくりひろげました。その大会を企画・運営したのは、県内各市町村の社会教育委員とその事務局の方々でした。「参加」ではなく「参画」を実現したこの大会に、「協働」という新しい社会教育のあり方を垣間見ることができました。「まず自分が、できることをやってみる」こと、そして「力を合わせる」こと。そんな、うつくしま、ふくしま発のメッセージこそが、「新しい公共」の原点なのかもしれません。

## 平成23年3月3日発行 社会教育 No.331

編集 社会教育課  
 発行 福島市杉妻町 2-16  
 福島県教育委員会  
 印刷 福島市西中央 4-25  
 (有)吾妻印刷